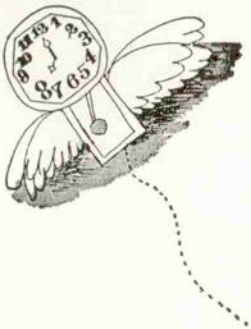
神戸百店会だより



★ちんがら屋 現代の新柄に意欲的


現代の柄にとりくんだちんがら屋展示会

呉服のちんがら屋（センター街・さんちか店）では8月19・20日、オリエンタルホテル2F大ホールで、恒例の「秋の珍趣会」を開いた。

今回は〝モダンアートの紺を着る〟という粋なテーマの下に、紺を主調色にした大胆なデザインを染め上げ斬新な線の流れと華麗な色彩が鮮かな訪問着、中振袖、紺の渋さを上手にいかした帯地、粋好みのコート地などが発表された。

「美術界におけるモダンアートは色々な形で試みられているが、きもの界にあって、これほど大胆にとり入れたのは一種の冒険ともいえるもの」と、現代の着物に意欲的に賭ける展示会であった。

★パリー・イン・コウベ コマツヤのコレクション

婦人服地・お仕立て・プレタポルテのコマツヤが、9月2～7日、さんちか広場で、第8回'71～'72秋から冬へのファッション・ショーと展示会を開いた。

「パリー・イン・コウベ」のテーマの下に、5・6日の両日行なわれたファッション・ショーでは「詩人の館」「サンジェルマン」などと名付けられたヤングミセス調のシティスーツやイブニング32点が登場した。


コマツヤ・ファッション・ショー

★ちょっぴり秋だなあ 三愛ファッションショー

9月4日、三愛の〝アイム・ハッピー〟ショーが開かれた。かわいい木椅子が並べられたサンプラザラ3Fフロアーで〝茶〟をテーマに展開されたショーは、楽しいおしゃべりあり、ぶどうやりんどうの花……のプレゼントもあり、何となく秋を感じた一時だった。


三愛の楽しいフロアー・ショー

★ファミリア横浜店開店

9月6日、ファミリアの横浜店が元町通り3丁目（TEL681・5060）にオープンした。

異国調の元町通りに合わせたお店は、素焼のスペインがわらを赤くぬって彩りさくらの木の生地を生かしたドアと、ヨーロッパ調のインテリア。店内も動物柄の壁紙にカーテンと楽しい雰囲気。商品構成は他店と一緒だが、やや輸入ものを多くとり入れているとの事

●ショップトピックス

★元町通り2丁目、舶来服飾雑貨のサノヘが10月28、29日、ニューポート・ホテル2Fの大広間で恒例の〝フランス・キャピタル・フェア〟を開く。ドゥザーブル社をはじめとするフランスのファッション・メーカーの72年春夏のコレクションが発表される。注文すると体に合わせて縫製、来春パリから直送されるシステムが好評。

★御木本真珠（国際会館（F））では10月18、19日、大阪ロイヤルホテルで、秋の新作展示会を開く。大阪においでの時はどうぞ。

★蛸の壺の東京店が、ビル建設協力のため、7月5日より移転しました。旧店舗より道玄坂をやや下った建設中ビルの向い側で、新店舗住所は、東京都渋谷区道玄坂二の九の九　光真ビル木内メガネ店地下　TEL03－461－2392

★トアロード、婦人服飾雑貨のスギヤが阪急神戸店に8月31日、支店を出しました。寄ってみては？

★婦人服飾のセリザワが商品券（五百円券）を発行しています。さんちか店、センター街店、サンプラザ店、大丸前神士服飾店、大丸前婦人服飾店の五店共通。趣味のうるさい方のプレゼントに。

★風月堂では、アーモンドにココアをまぶした〝アーモンドプラリネ〟を新発売。夜のティー菓子にも、ドライブにも香ばしいおいしさです。袋入り¥200 ¥300。おつかいものには日持ちするプラスチックケース入¥250。

★トアロードのエスターニュートンにイタリア・セントポール社のパンヌー・ベルベットのジャージー素材のワンピースがあります。着やすいお洒落着です。¥34、000。また今秋から〝ジャン・パトウ〟の新作が入荷します。

ポケットジャーナル

★第一回神戸市民会議開かれる

「あすの神戸のために」と題して、第一回神戸市民会議が九月十三日午後一時から兵庫県歯科医師会館で開かれた。この市民会議は「豊かな神戸の町づくりへ市民の創意と英知を結集しよう」と神戸青年会議所が提唱したもので、住みよい神戸をつくるために市民、行政、企業の三者が一体となって考えようというのがねらいである。この日集まったのは各界、各層の代表約百人で、宮崎市長、栖崎副知事も参加し、公害問題、物価問題など身近かな問題が真剣に話合われた。この日は初めての会議であったが、これを機会に三者が一体となった対話の場をさらにもちたいという宮崎市長の挨拶で第一回の幕を閉じた。

★"ボンジュール さんちか"催物案内

パルリ・ドゥ姉妹提携とさんちか6周年を記念して楽しい催物がいっぱい。秋はさんちかでフランス通になって下さい。

さんちか広場のご案内

★パルリウイークセール
10月1日〜6日まで
フランスのアクセサリー・切手・ポスター・リトグラフ・ワイン・おかしなどがフランスと同じ値段で買えます

★デッサンコンテスト
〈テルトル広場で絵をかこう〉
10月7日
神戸在住の画家の指導のもとに外人をモデルにデッサンした絵をコンテストします

★さんちかボンジュール ファッションショー
10月9日・10日
第1部パリの香りはさんちかから
第2部　世界のモードはパリから

★さんちか写真撮影会
10月3日

★フランス名画祭
10月18日〜23日農業会館
フランス映画の上映

★さんちかシャンソン・フェスティバル
11月6日国際会館
出演・石井好子・加藤登紀子・堀内ミキ

★さんちかミステリーパックセール
10月1日〜15日全店
三千円以上お買い上げの方に抽選でフランスの品をプレゼント

★CRホールでユニークな湯山昭作品研究の会

昨年度芸術祭大賞を受けた作曲家の湯山昭さんを神戸へ迎えて、十一月二十一日（日）午後一時から須磨のラジオ関西CRホールで「湯山昭作品研究の会」が、アカデミー神戸ゆめのサロン（神戸市兵庫区熊野町一丁目七二　TEL五一一—八九四三）の主催で開かれる。

プログラムは、ピアノ曲集（子供の国）が小学生中心に、ピアノ曲（日曜日のソナチネ）が中学生中心に発表され、ゲストに、子供のうたを、胡谷音楽園の園児が、合唱物語を、コーロポルテニオが出演。歌曲〈カレンダー〉を主催者の柴田多嘉子さんがピアノ伴奏し、吉田郁子さんが歌う。最後は湯山昭さんのお話で、はじめて神戸を訪れた現代日本の代表的な作曲家を囲んで、湯山作品を愛する人たちが参加するユニークな会だ。（入場無料）

誕生日ありがとう運動

★啓蒙図書の紹介

本運動は、誰にでも年に一度めぐってくる誕生日を機会に、精神薄弱児（者）を正しく理解し、あたたかい思いやりのある心を通わせようという啓蒙運動です。

この啓蒙活動の一環として、次のような啓蒙図書を発行していますので紹介します。

「ちえおくれの話」　神戸大学助教授伊藤隆二著、A五版一一八パージ、頒価二百円（〒共）

「共に育つ」　糸賀一雄講演集A五版八〇ページ、頒価二百円、送料五十円

「糸賀一雄氏とその思想」　京都精華短大教授野上芳彦著A五版二三ページ、頒価六十円

「精神薄弱対策の基本的な考え方」　前神戸市民生局長桧前敏彦著、A五版三〇ページ頒価五十円送料三十五円

「考えよう」　ボランティア活動について、桧前敏彦著、B四版二六ページ、頒価五十円

「大きくなったら」　ちえおくれの子の作品集、京都精華短大VYS編集、A五版一一〇ページ、頒価二百五十円、送料、五十円

「ボランティア活動のすすめ」　野上芳彦著、A五版二六ページ、頒価六十円

申込みは本運動本部まで

誕生日ありがとう運動本部
神戸市葺合区御幸通八の九の一
神戸国際会館一階の郵便局前電話二五一—八一六一内線二五八
振替口座　神戸一二五五九番

★ジャックエステル作品と葛飾北斎展がお目見得

九月十三日、帝国ホテルで、そごうがフランスのデザイナー〝ジャックエステル〟の新作品を発表した。

ジャック・エステルは、東京、メキシコ両オリンピックのフランスユニホームのデザインで知られた人。

神戸そごうの九月三十日からのフロア改装にともなって、三階レディスフロアで、神戸でもはじめて彼の作品が紹介される。

また十月一日から十三日の一週間、葛飾北斎展が、そごう神戸店の九階特別催会場で開かれる。

肉筆画五十余点に、富嶽三十六景など有名な版画二〇〇点も展示される（主催日本経済新聞社）美術の秋に嬉しいニュースだ。

ジャックエステル氏

★養老院の人々を花柳芳恵一子リサイタルに

八月二十一日に神戸国際会館で開かれた「花柳芳恵一子リサイタル」に、六甲ライオンズクラブと神戸ライオンズクラブが、神戸市内の養老院のお年寄り二七〇名を招待した。

実川延若と芳恵一子の「かさね」、中村扇雀との「おさん茂兵衛」など、お年寄りには楽しいプログラムであったようだ。幕合を利用して、花柳芳一師匠が、代表のお年寄りに花束贈呈もあり、古典、創作舞踊にひたった一日となった。

寄り年寄りお花柳芳一さんから花たばを贈られる

★期待される人形バラエティショウ

神戸在住のユニークな司会者、腹話術師として活躍中の竹村まことさんが、この10月31日午後一時、四時、六時半の三回にわたってラジオ関西CRホールで「人形と共に15年」と題した人形バラエティショウを開く

人形劇一すじに打込んできた竹村さんが15年の成果を結集し、また新たな飛躍を目ざして開くものだが、このショウではおなじみの〝ピコちゃん〟の他に〝チャコちゃん〟の二つの人形を使っての腹話術や文楽人形の三番叟などいろいろな新企画も予定されている。

入場券（五百円）は、新聞会館、国際会館の各プレイガイドで発売中。

★赤ちゃんのお肌にもどる話題のミルクリーズ

ビューティフルになりたい女性に嬉しいニュース。

ミルクリーズと呼ばれるスプレースタイルの美顔美容クリームの登場。一本千二百円だが、マッサージ、洗顔・パックの三つの効果をあげ、皮膚がつややかに赤ちゃんの肌にもどる。主成分は牛乳タンパク質なので、肌の弱い人、あぶら顔、ニキビで困る人には何より。

ミルクリーズ

神戸では、国際会館のベニー毛皮店化粧品部・〇七八（二二一）三三二七。または神戸っ子編集部〇七八（二二一）七〇三七で取り扱い中。発売元／ミルクリーズ本舗東京・銀座出雲ビル3F31号TEL〇三（五七一）二八六関西地区大阪ROTTYTEL〇六（二六二）〇五四七

★さんチカで珍しいファッション画展開かれる

九月九日から十四日までサンチカの三菱ホームギャラリーで珍しいファッション画展が開かれた。

「夙川グループ」の五人の若い女性（阿曽セツ子、神行節子、北冨美子、高沢民子、三村知子）の作品でファッション画にスパンを使ったのははじめての試み。デザイン画を指導して

美術ガイド

★近代美術館
今日の百人展 9月5～10月3日
近代ヨーロッパの美 10月10～11月7日

★白鶴美術館
白鶴秋季展（中国の古代青銅器） 9月15～11月23日

★南蛮美術館
南蛮紅毛美術展（初期洋画の流れ） 10月1～11月25日

★大丸5階画廊
大丸洋画展 10月5～10日
北村西望彫塑展 10月13～17日
彩虹会陶芸展 10月19～24日
水越松南日本画展 10月26～31日

★そごう6階画廊
青木一夫欧州風景展 9月30～10月6日
異色五人展（網谷義邦・鳴居玲・中西勝・西村功・松本宏） 10月8～13日
山田鳥石書展 10月15～10月20日
秋の茶道具逸品展 10月22～10月27日
京都陶芸家クラブ展 10月29～11月3日

★安田画廊
安田興二郎個展 10月5～10月10日
三谷恒夫個展 10月12～10月17日
三原康夫個展 10月19～10月24日

★新光ギャラリー
座標グループ展 9月25～10月1日
グループ・ドウシ2人展 10月2～10月8日

★アカデミー画廊
海事検定美術部展 10月5～10月10日
KILONOG会 10月12～10月17日
甲南女子大美術部展 10月19～10月24日
田中徳喜個展 10月26～10月31日

★KCCギャラリー
墨象3人展 10月1～10月7日
日神戸外大美術部OB展 10月8～10月14日
松陰女子学院大学美術部展 10月15～10月21日
第5回泉眼同人展 10月22～28日
第20回三篠社書画展 10月29～11月4日

★風月堂ルナピナコテカ
中島節子個展 10月1～12月末


ファッション画展より

いる安原万住代さんは「現実のゴミゴミした世界を離れて、少しでもきれいな夢を……。」

とこの企画の意図を説明。通行人も思わず足をとめて、このファンタジックな作品に見とれていた。

★黒の魅力の浅川マキ公演


浅川　マキ

黒のドレスに長い髪。「夜が明けたら」「かもめ」などを歌い、若者の心をとらえて放さない浅川マキが、黒のホール、芦屋ルナホールにやってくる。10月3日(日)6時半、前売八百円、当日九百円。連絡先西宮二二―二九一五田中方。

浅川マキが好きで好きでたまらないという女の子たちと、神戸で何かやりたいという男の子が、新聞で仲間を募って三十人を集めやっと実現した企画。マキもこの日のために新曲を作ってくれるなどこのコンサートに意欲的だ。

★ファッションジーンズの店岡本に

国鉄本山駅と阪急岡本駅の中間位置に、コーヒーとピザの店〝ヴィヴァ・ハーフ〟がこの七月オープンしたが、その一角にジーンズ専門のコーナーがある。パンタロン・タイプの股上が浅い〝ハーフ〟(生地はUSA京都の若者による製品)を主体に、Lee、リバイス、ビッグジョーン、ブロッサムのブランドが揃い、ホワイトジーン、赤、ピンク、ストライプもある。


ハーフの吉倉さん

「商売は初めてなの」という〝ハーフ〟店長の吉倉京美さんは元ファッション・モデル。喫茶店は板ばりの壁にブルー、赤、黄の原色を配置したおもしろいインテリア。ファッション・ショーもできそう。

花時計

神戸をファッション都市に

情報産業の代表的なものにファッション産業がある。神戸はモダーンな町だといわれているが、果たしてファッション産業がどのように息づいているのか確かめてみて、非常に心強い成績をあげているのに一驚した。

神戸という町を背景にKOBEというブランドで付加価値のあがる商品であることが判ったしオリジナリティのあるいい商品が堂々と全国にその名をあげているという。

そして、ほとんどの流行の商品が神戸で実験的に販売され、全国に流れていく場合が多いということである。

これは、神戸という町に住んでいる人たちのセンスがどれほどすぐれているかということを見事に実証している。

センスのいい商品を創り出すということは大切なことだが、すぐれた選択ができる消費者が住んでいるということは、一朝にして形成することのできない、大変根強い真似のできないことなのである。

この神戸の土地柄を生かしてさらに、すぐれたファッション都市に進めたいものである。

世界のファッション商品がパリから流れていた時代がいま過ぎようとしている絶好の機会でもある。(Y)

KOBE POST

★酒のみらしく酒どころ灘の御影にかわりましたと、行動美術の**貝原六一**さん、さち子さんご夫妻から通知がありました。

新住所は、神戸市東灘区御影町郡家字庄田234ふじハイツ〒658TEL078(841)2155です。

★タレントの**マリア・リグレステイ**さんが、神戸を離れて西宮に移転されました。西宮市門戸西町十四―十二甲東園ハイツ三〇二号〒662でんわ(0798)52―1143

★東京の早川デザイン研究所で活躍中の**港野千穂**さんは、このほど東京都港区麻布我善場町十六・サンマンション205へ移転されました。

★元道化座の**伊吹健**さんは、九月六日より、松山バレエ団訪中公演の舞台監督として北京に出発されました。(伊吹さんの住所は尼崎市東園田町五丁目一三二)

★国際会館一階のペニー毛皮店**井口良子**さんが亡くなられたのは五月二十七日でありましたが、このほど、その後を妹さんの**大島福栄**さんが継続して営業されることになりました。元神戸大丸婦人服部デザイナーとしての経歴を生かしてファーファッションに力を入れられるそうですからお引立てのほどを。

★神戸青年会議所理事長の**木下健**さんが渦森台の眺望バツグンの地に新居をかまえられました。新住所は、神戸市東灘区渦森台三丁目一五ノ一(〒六五八)TEL078(841)7415です。

★トアロードの神戸宝石は、十月一日の開店を機に**神戸ダイヤモンド**と改名されました。社長谷路一夫さんTEL(331)0690

SARA
2 YEARS
ANNIVERSARY

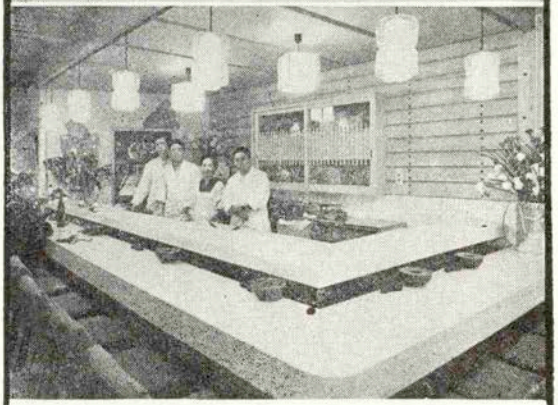
菊薫るとき、娑羅も10月22日で満2周年を迎えました。日頃のご愛顧に感謝をこめて、21日22日23日をサービスディといたしますのでお気軽にお立寄りくださいませ。

〈田中淳子〉

娑羅 SARA

生田区中山手通1丁目91 (078)391—1647

ゆったりと落ち着いたスペースで
新しい“味”をご賞味ください。



鮨の又平

神戸三宮生田ノ社ノ西
電話・三の宮 (331) 0935

□連載小説 18

キリシタンの墓

小山牧子
え・石阪春生

父と娘（3）

あらすじ 二年前短期大学を卒業した佳は、母蘭子との生活に息づまりを感じ、米国系海運会社のエイジェントに勤めに出ることにした。ある日、佳は願成寺の墓地の暗がりで会った村重船長と名乗る老人から、偶然自分の父、村林祐作の過去を知る。その父が久しぶりに航海を終えて神戸に帰ってきた。が、佳の心はおだやかでなかった。

佳が一の谷の台地へ帰りついたとき、桧葉垣のむこうに佇立する館には人の気配はまったくなく、蘭子はまだ夜の会合から帰宅していないらしかった。

立枯れた木のような風貌をもつ無人の館は、この館の住人である佳の帰館をもこばむかのように、無表情に冷えている。灯火を消した窓たちはすべて、月もなく星もない凄惨なその夜の空の一片をかきとってきて象眼したかのように、暗い鉛色に沈みながら、それでいてなにか建物の内部にひそむ陰湿なものを吐きだしているかのように、奇妙に暗鬱な輝きを、あたりの虚空に放っているのだった。

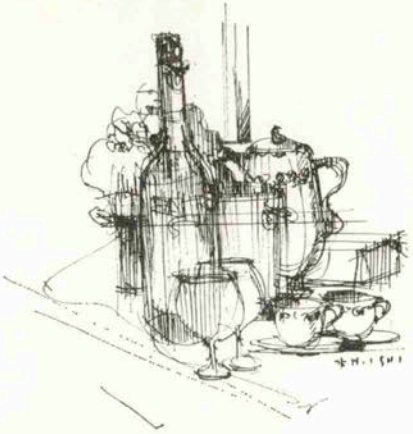
この陰気な風貌で冷える無人の館に足を踏みいれるためには、住みなれた佳でさえもかなりの勇気がいるものだ。そして、蘭子の不在は今夜に限ったことではない。

桧葉垣の重厚な茂みを抜け館に近ずきながら、佳は母が不在の無人の館で過ごした淋しかった幾夜々をおもい返していた。それらの夜は、なんとしばしば佳を孤独と恐怖で打ちのめしたことか。

が、きょうからは違う。きょうからはパパがいる。館の古い木の扉のすでに錆が出ている鍵穴に相鍵をさしこみながら、佳は、自分の常にひもじく弱い獣のようにおどおどと敏感にふるえている胸に、一本の明るい光線がさしこんでいるのを知っていた。この無人の館の中でじっと堪える、その行為の果てに、佳の手にふれてくる堅いが暖かい掌の感触がある。佳を包みこむ靱いやさしさにみちた微笑がある。

すでに佳は、父が娘にさえも秘密にして、あの願成寺の庫裡へむかし愛した少女の父をたずねていった背信の行為を許していた。

湿気とカビの臭いがよどむ館の閉めさった部屋部屋の窓を開け放つと、即座に樹木のかんばしい香りで飽和した初夏の風が流れこんだ。軽快に唄など口ずさみながら、佳は館中の電灯をともしてまわる。特に父の部屋の換気と照明には気をくばらねばならない。あと一時間、いや三十分ほどでこの屍のように冷えきった部屋の住人が帰ってくるのだ。



窓という窓のすべてに灯をともすと、館は果てしなく黒々と広がる樹海の中を燦然と輝きながら漂流する船といった観を呈するだろう。そして、それは長い航海で疲れきり、眠りこむ場所を求めて帰ってくる海の男、父、裕作を迎えるのにこそふさわしいと、佳には思えるのだった。

熱い茶、ナイト・キャップ用のブランディとグラス、氷など、父を迎える準備を万端ととのえ、佳は待った。

いつもの夜と同様に、窓外では、野鳥が添黒の虚空をギザギザと切り裂くような「ギャーッ」という鳴き方で鳴き、それと呼びあうかのように、館の玄関であの老歌人の遺品である黒い不吉な鳥、九官鳥が羽ばたく。が、今夜の佳にとって恐ろしいものは何一つなかった。もうすぐに、佳は父と一緒の団楽のときがもてるのだ。

やがて佳の耳は、待っていた靴の音をとらえた。それは、館近くになって突然わきだしたかのように、靴く正確な足どりで戸口に近ずいてくる。父のものであった。

佳はソファからはね起き、あわただしく階段を駆け降りた。

「お帰り、パパ！」

佳の輝く瞳にとらえられた父は、閉じた扉を背に微笑し、うなずいていた。

「ごめんよ、ケイ……。もう機嫌をなおしてくれたね？」

父は夜ふけの街で佳を捨てたことをすまなくおもっていてくれた！そして、佳は、それだけで、父のその言葉だけで心がなごんだ。

裕作が佳の明るい微笑に迎えられて靴をぬぎ、玄関のホールに上った、そのときである。鳥籠の中で止まり木の上をうろうろと歩きまわったり、羽ばたいたりしていた例の九官鳥が、突然しわがれた声を頻狂にはりあげ叫びだしたのである。

「ランコ、ランコォ、キットカエッテクル、ランコォ……」

聞きなれているとはいえ、時がときだけに、佳はその九官鳥の奇妙な言葉に当惑した。が、それ以上に、父、裕作は、その不吉な感じを人に与える鳥の声に驚き、凝然と立ちすくんだ。顔色さえも心持ち蒼ざめ、父はもの問いたげに佳を見つめてくる。が、そんな人間たちの狼狽のさまをよそに、九官鳥はなおも叫びたてる。

「ランコォ、ランコォ、アイシテイル、ランコォ、ランコォ、キットカエッテクル、マットルンヤゾォ、ランコォ、ランコォ、ランコォ……」

この叫びたてる鳥と、その陰にひそむ人間同志の葛藤のドラマを、佳はどのように説明すればいいのか。しかし、言葉を探す前に、佳の目から涙がほとばしった。

「パパァ！」

まるで駄々をこねる幼女のように、佳は父の厚い胸にとびつき、やがて声をあげて佳は泣きはじめた。佳の脳裏を、すぎた六カ月の間に蘭子をめぐって起ったさまざまな事件が閃光のようにきらめきながらよぎり過ぎる。

老歌人寺田春暁の受賞を祝う会での蘭子の愛人とうわさされていた脇坂紫峰の泥酔と、塩屋海岸での失踪、蘭子のスランプ、そして深夜、不吉な感じのする易の老婆の言葉にみちびかれるようにしてゆきついた古寺、願成

寺での奇妙な老人との出会い。そこから口ひらいた父と母の秘密。

過ぎた日々のひとこまひとこまをおもいだすたびに、また新しい涙があふれた。

佳が涙と共に父の胸に吐露しようとするもの、それはいつか単に、暗くいびつにゆがんだ家庭に対する不満をうったえるというものから変質し、誰からも愛されているという確証がえられぬ、それでいて人を愛するためには、あまりにも自己中心的に育てられた少女っぽい未熟な女の青春の懊悩を吐きだすものになっていたことを、佳も父の裕作も知らないでいる。

佳は、いつまでも泣いていた。慟哭の声が古い館をふるわせる。半年の間、ぴったりと閉じていた佳の内側で解けてゆく硬い甲羅がある。硬い甲羅は白い涙となって流れだし、裕作の胸をぬらし続ける。

裕作は、女特有の泣くという行為がもたらす快感に陶酔する佳をなすがままにまかせ、いたましげな表情でじっと堪えていた。やがて、節太い指をもつ手が、ゆっくりと佳の肩に垂れる黒い髪に動いてゆき、いとおしむように、愛撫するように……。佳は、鋭敏な感性で父のいたわり深い手を受け止めた。涙が流れつくして放心し、むなしくなった胸の内には、幸福な気持がみなぎりあふれるのだろか。

佳の気持を静めるために、その髪に手をふれる父と、父の胸に顔をうずめる娘。そこには、父であることと娘であることの存在から大きくはみだしたなにか、触れてはならぬ者同志が深く触れあうときに見せる、あの背徳の美しさをさえほの見せたのであった。

事実、佳はその一瞬、父の愛撫の感触を喜こびながら断片的にではあるが、ある決定的なおもいで気持を昂揚させていた。佳は、まだ閉じたままでいる青春をおもい、自分をめぐるさまざまな人模様をおもい、二十三歳になる現在まで、自分は一度でもそれら自分以外に存在する者のために命を捨ててもいいとおもったことがあるかと問うてみるのだった。が、当然そのような形で愛した他者はいなかった。しかし、いまこの一瞬、佳は断固としておもうのである。いま佳の長い黒髪に手をふれる父のためだったら、自分は喜んで死ぬことができるに違いないと。

たとえ一瞬にもせよ父の内に一人の男を、娘の内に一人の女を見せあいながら、当人同志はそれとは知らず抱擁する形でロビイに立ちつくす二人の周囲、館の外の夜は更けると共に一層あつく闇をかさね、深くふかく沈黙していた。

母の蘭子が帰宅したのは、佳が父を迎えてから更に三時間ものときが過ぎ、ブランディのグラスを傾ける父に九官鳥がこの家に持ちこまれたいきさつや、脇坂紫峰と蘭子のこと、最近の母の行状などをかいつまんで話して聞かせ、平静にもどったらしい父が、かなりの距離をおいてそれらの話を聞き、やがて適当に酩酊して、自分のベッドで眠りこんだそのあとでだった。

蘭子は、時どきやるようにその夜も歌仲間である二、三人の青年に送られて帰ってきた。青年たちを館の中に招じ入れることはしなかったけれど、それでいてすぐに追い返そうともしないで、戸口の外のポーチにたたずみ、蘭子は青年たちを相手に、佳にとっては際限もなく長い時間におもわれたのであったが、かれこれ二十分近くも話しこんでいた。いつものことであるが、たぶん讃辞に対して貪欲な蘭子が、まだむさぼりたりぬ言葉を、青年たちに期待したからではなかったろうか。

青年たちは酒気を帯びているらしく、二階の窓ぎわでようすをうかがう佳の耳にも響くほどの高い声を出すときがあった。

「本当に、僕等には想像もつかなかったですよ。あなたがこんな鋭い感受性の持主だったってこと……」

と、常々、絶対に酒をたしなむことがないのに、いつも醒めた冷静な表情で酒席にはべることは辞さぬ蘭子のリンとした笑声だけが、夜のポーチから佳のいる二階の

窓辺まで響きあがってくるのである。
「浪慢派歌人の領域を見事に脱皮なさったんだから…」
「僕はいま蘭子さんに嫉妬をしている……」
「ま、嫉妬だなんて、ご冗談ばかり……」
ひときわ高い鈴を振るような笑声を響かせたあと、蘭子の声が急に艶を帯び、青年たちのうちのただ一人にむかって話しかけるらしく、
「わたくしからいわせていただきますとねえ、篠原さん若いということは、何にもましてすばらしいことだとおもいますのよ、本当に、あなた。才能も可能性も、すべて未知数の若さのうちにあるのですもの……。すばらしい、あなた、すばらしいわ」
やがて、はじめとうって変った、言葉の語尾をしっとりと濡らすような笑声。その低くパイプレイトさせる笑声には、人工的に造られた女の情が感じられる。
この手折られるのを待つ花の姿を連想させずにはおかぬ蘭子の語調と笑声を、眠りこむまえの夫、裕作もまた聞いているだろうか。
佳の胸もとを、嫌悪感が黒い塊になってつきあがってくる。ポーチにたむろして話す彼等の頭上の窓をガラリと引き開け、割れかえるほどの大声で追い散らしてやりたい。深夜というよりもすでに夜明けに近い時間に、他人の家庭の平和を乱して群れるカラス野郎ども！
部屋の中で、佳は獰猛な罵り声をあげたけれど、おもった通りに彼等を追い散らす決断はつかなかった。というのも、もし父が眠りこんでしまっていたあとだったら佳の行為は、それと気ずかず心を安めている父に傷の痛みを自覚させる結果をもたらすとの配慮からであった。
若い佳をいらだたせて延々と続くとおもえた蘭子たちの話のやりとりも、やがて蘭子が、
「手造りですけれども……」
といって花壇から切り取ってさしだす純白の百合の花を青年たちがありがたげに受けとるといういたって古風な少女趣味的な幕切れを最後に、青年たちは帰っていった。
で、佳は、足音を殺して階段を降り、蘭子の部屋の戸を荒い仕種で開けたのである。
「パパもう眠ったわよ！」
詰問する口調と、鋭く尖ったまなざしを、入ってきた佳の方に振りむこうともしない蘭子の背に射こむと。
「そう……」
気のない返事をして、なおも佳に背をむけている。一瞬まえ、若い男たちと共にいたときの陶酔がまださめぬためかとあやしみ見直す佳であったが、しかし、その背はなぜか硬く冷たくよろっている。
母と娘は、互いに黙りこみ立ちつくしていた。その二人の間にわだかまる硬い沈黙は、館中をじんと冷えさせ館の外の闇の虚空を氷らせてゆく。その氷る虚空を亀裂が走るように、蘭子が帯を解く絹ずれの音が……それは、なんとも孤独な女が奏でる音であった。
蘭子の背にはりついて離れぬ自分の視線をもぎはなすようにして自室にひきとる佳は、ふと妻の乱行に近い行為を無限に許す父と、あの由佳子という女の色あせた写真の顔をおもっていた。もしいまの蘭子と同じ行為を生き永らえた由佳子がしたならば、裕作は由佳子を許したろうかとの疑問が佳をとらえる。そして、ただ一度の過失を決して妻に許さなかった村重船長と呼ばれる男の激しさ。
佳は、二人の男が妻に示す両極の行為、撤底した寛容のうちに男の内面に持つ恐ろしさと深淵があると感じるのである。
それにしても、無限に許されている蘭子の背中が持っている硬い淋しげな表情。佳はなぜか、脳裏にあの願成寺の庫裡に住む奇妙な老人の、遠いさいはての地に堕ちていった妻の姿を、豊かな肉感をもって連想することができた。そして佳が連想したその女は、蘭子よりもはるかにしあわせそうになごんでいたのではなかったろうかと。
（つづく）

DRINKING

スタンド

千　景

生田区中山通２丁目75伊藤ビル３Ｆ
ＴＥＬ331—9592

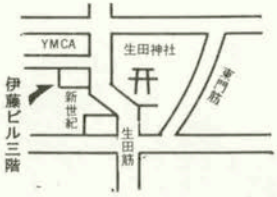
★生田神社西門にある伊藤ビルの３階に、スタンド“千景”が誕生した。

３階エレベーターのすぐ前にある扉を押すと、シックなKOBEらしい落ちついたインテリアの中から“いらっしゃい”とママの河野千景さんが声をかけてくれる。和服のよくにあう可愛いい感じのママ。バーテンの中西貞成さんも、14年のキャリアが自然に店の中をリラックスなムードにしている。その他に女の子が３人。

「まだカラーが出来あがっていませんけれど、これからいらっしゃるお客様に合わせてじょじょに店づくりをしますわ」と。

水割り（ミネラルウォーター）オールド400円、ビール300円、スコッチ600円、バーテンの中西さんによる毎日変る小鉢物も魅力の一つ。ビジネスマンや中年の人々にも人気がある。

営業時間午後６時—12時。



SACK

山　荘

生田区北長狭通１丁目22
TEL 391—5823

★生田筋、上高地横の道を東に入るとすぐ目につくのがスナック“山荘”だ。

戸を開けて一歩中に入ると活気の溢れた若やいだ雰囲気にまず驚く。古いランプと、彎曲した珍しいカウンター、背後のスイスアルプスの大きなパネル等が山小屋的な楽しいムードをかもし出している。毎日午後８時からギターの生演奏もあり、マスターの上松さんが評する通り、強烈な個性をもった魅力あふれるスナックだ。

ニッカウイスキー　G&G　¥350　ビール　¥250

スパゲティ、スープ　その他各種小料理

P.M.6：00～A.M.2：00　第１、第３日曜日休み。